台高山脈　高見山から大台ケ原縦走

日程＝9 月 30 日～10 月 3 日
山行者＝M 上

コースタイム

1 日目：杉谷高見山登山口 10：15－－高見山 12：20－－雲ヶ瀬山 14：05－－伊勢辻山 16：35－－明神平 18：30

2 日目：明神平 5：15－－千石山 8：05－－池木屋山 12：40－－弥治平峰 16：17－－テン場 17：20

3 日目：テン場 5：00－－霧ノ平 5：50－－馬ノ鞍峰 8：05－－地池越 11：00－－山ノ神ノ頭 12：54－－テン場 16：10

4 日目：テン場 5：00－－振子辻 9：30－－添谷山 13：14－－大台辻 14：30－－大台ケ原川上辻 17：10

紀伊半島の東側、奈良県と三重県の県境を南北に連なる台高山脈の縦走に出かけました。関東の人たちにはなじみの薄い山々でしょうが良く知られている奥駈の大峰山脈の北東に並行して台高の山々が連なっています。唯一大台ケ原と大杉谷は知られているところですが日本一雨量の多さが深い谷を作り 1200～1400m程度の山の連なりですが存在感を出しています。

1 日目：夜行バスで早朝奈良駅に到着。JR、近鉄と乗り継ぎ榛原駅からバスを乗り継ぎ東吉野村の高見山登山口に到着しました。東吉野村のコミュニティバスには 1 時間近く乗ったのですが料金は 200 円。まことにありがたいが申し訳ない。

最初の高見山はとがった山で関西のマッターホルンと言われて人気があるそうです。でも山頂付近は雲の中で見えませんでした。いつもながら熊注意の看板を見ながら山道を登って行くとお昼に山頂。しかし平日で誰もいませんでした。南の高見峠に下ると初めて人に会いましたが最初で最後。峠から今回の縦走路が始まりました。

丹沢の尾根を歩く様な感じで熊笹の尾根からやがてぶな林の尾根道に変わり、夕暮れで赤く染まったころやっと初日予定の明神平に到着しました。キャンプ地として人気のあるとこらしいですが広い原っぱは私一人でした。

2 日目：早朝朝露でテントはたっぷり濡れましたが歩きだすと晴れ間が広がりました。登山道というよりは踏み後といった印象ですが道はつながって進むには問題はありませんでしたがブナ林が美しくなると踏み後がはっきりしない所もあって広めの尾根を時々コンパスで方向を確認して歩く様になりました。方向さえ間違わなければ進めますが池木屋山を過ぎると尾根は細くなり谷は深くなってきました。今まで遠慮がちに枝についていた赤いテープも無くなりどうも核心部に入ってきたようです。

この先で水を確保するつもりでした。地図にある P1258mと思われるところにザックとポールが置いてあり多分水を探しに行っているのだと思いしばらく待ってみましたが一向に人は現れず水を探して先に進むことにしました、が水場が分りません。ルート近くの水場は無くなっているようで谷を下ることも考えましたがかなり急峻であきらめて先に進みました。次の水場までまだかなりあるのであきらめてテント 1 張りできる平地を見つけて泊まることに。この夜は水不足で食事は作れませんでした。

3 日目：朝コーヒーを 1 杯飲んで出発しました。天気は良く 50 分ほど進むと霧ノ平と名

づけられた平地に到着。ここは昭文社の地図には明記されていない所ですが近くに水が流れていました。改めて朝食を作りおなかを満たしました。

馬ノ鞍峰を過ぎて地池越、山ノ神ノ頭と進みますが尾根は細く上り下りが鋸の歯の様に続きます。それに木々に覆われているため先が見難く大きな倒木が先をふさぎます。毎年台風が通過する紀伊半島ですから倒木が多いのは仕方がないのでしょうが何度かピークからの下りの尾根を間違えて引き返し時間を浪費しました。岩稜もありわずかな距離もなかなか進めませんでしたがやっと予定のテント場に付きました。

ここは広く西側は切れていますが東側はゆるやかに広がり大きなブナの森に囲まれた今回最高のテン場で 2〜3 分下ると雨量観測の設備がありその後ろに沢が流れていました。時間は 16 時過ぎでもうすこし歩けましたが惑わずテントを張りました。ここではご飯を炊いてゆったり食事を作ることができました。

4 日目：予定では最後の日になりますがルートの様子は一向に変わりません。登り下りを繰り返し振子辻、引水サコ、添谷山と来たらやっと尾根が緩やかになってきました。

今回各ピークが分るのは登山者がつけた手作りの名札が各ピークにあったからです。関西の大学ワンゲルの人たちのつけた名札もありました。確かに藪山に近いこの尾根はワンゲルにはぴったりで山のスキルを上げるには最高のルートでしょう。

14 :30 大台辻にやっと到着。ここは大台ケ原まで道があることになっていますが道は「筏場道」と言う昔材木を筏場という所まで運ぶレールの敷かれた道の跡でいたるところ崩れていますが今までの尾根よりはましで徐々に高度を上げて 17：10 大台ケ原の道路に出る川上辻に到着して縦走は終わりました。

大台ケ原からの下りのバスは 15：30 の 1 本だけで行ってしまいました。でも大台ケ原には宿泊できる山荘が 1 軒あり快く迎えてくれました。

今回のコースは初日の明神平を過ぎると人工的な設備は唯一雨量観測の設備があっただけでした。標識も登山者がつけたもの以外は最終日の大台辻の標識以外はありませんでした。ただ色褪せた小さな古いテープやルート上にある県境を示す石の標識は役に立ちましたが小さくて地面に少しだけ顔を出しているだけなので注意して探さないと見つかりませんでした。

自由に泊まって火を焚いてなんてスウェーデンのトレッカー、エリックノーマークの山旅のようなことことを考えていましたがルートも厳しく距離があるため私には 3 泊ではのんびり歩けませんでした。シンプルな山行をおこなうため極力地図とコンパスで歩くことに徹しましたが何度か間違えると GPS を取り出しました。

シカの鳴き声や鳥のさえずりを聞き風の音と足音だけの山歩きがしたいと思うののですがなかなかそこまでゆきません。